

2009年11月4日

## 日本メドトロニック、グルコースモニタシステムの薬事承認を取得

日本メドトロニック株式会社(代表取締役社長:島田隆、本社:東京都港区)は、10月30日、グルコース値の連続測定を可能にするグルコースモニタシステム「メドトロニック ミニメド CGMS-Gold」の薬事承認を取得いたしました。

「メドトロニック ミニメド CGMS-Gold」は、日本で初めて承認されたグルコースモニタシステムで、皮下に一時的に留置したセンサ(電極)により組織間質液(皮下組織を取り巻く液体)中のグルコース濃度の連続測定(1日に最大288回)を実現します。測定はひとつのセンサで最大3日間に渡って行い、得られた測定値はセンサに接続された携帯型のモニタシステムに5分毎に電子的に記録されます。医師はパソコンを介して複数日に渡るグルコース値の日内変動などを解析し、目標値からの逸脱パターンを認識することで、糖尿病治療の最適化が可能になります。

糖尿病治療では、適切な血糖コントロールを行うために、医師が患者さんの血糖値変動を把握する必要がありますが、これまでは、自己血糖測定(SMBG: self-monitoring of blood glucose)が主な手段であり、1日の測定回数が限られるため、測定した値からグルコースレベルの総合的な変動傾向を示すこと

は困難でした。また、1日に何度もSMBGを行われる患者さんであっても、夜間就寝時などは測定が困難なため、無自覚の低血糖状態や、早朝に血糖値が上昇する「暁現象」などの大きな変動を見過ごす可能性がありました。

また、血糖コントロール状態を表現する別な指標として、過去1~2ヶ月間の平均値を示す「HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)値(\*)」も使用され、この値を低く維持することがよいとされていますが、平均値を低くコントロールしようとするため、低血糖状態を招きやすくなる恐れも示唆されています。

「メドトロニック ミニメドCGMS-Gold」は、SMBG やHbA1c では測定不能なグルコース変動のより正確な評価を可能にし、個々の患者さんの状態に即したより良い治療方針の立案を支援します。さらに、従来のインスリン注射療法に比べ、患者さんのライフスタイルに合わせたインスリン調節が容易な持続皮下インスリン注入法(CSII)「パラダイム インスリンポンプ」と組み合わせることで、より厳密な血糖コントロールを可能にします。

日本メドトロニックは、今後も血糖管理が必要な様々な患者さんたちのための革新的なグルコースモニタシステム関連製品、ならびにCSII 関連製品の提供を通じ、糖尿病患者さんのより良い治療とQOLの向上への更なる貢献を目指しています。

以上